

**製品名: MaxiK $\beta$ 2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13676**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	30kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KCNMB2 KCNMB2; Calcium-activated potassium channel subunit beta-2; BK channel subunit beta-2;
別名	BKbeta2; Hbeta2; Calcium-activated potassium channel; subfamily M subunit beta-2; Charybdotoxin receptor subunit beta-2; Hbeta3; K(VCA)beta-2; Maxi K cha
遺伝子 ID	10242.0
SwissProt ID	Q9Y691
免疫原	抗血清はヒト KCNMB2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

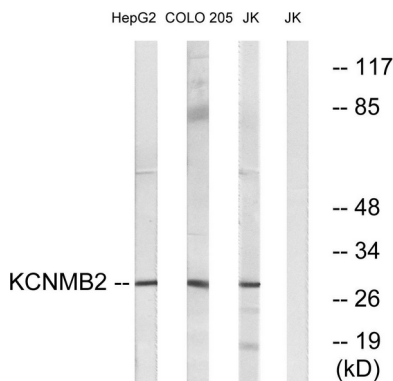
**背景**

MaxiK チャンネルは、平滑筋の緊張と神経興奮性の制御に不可欠な、コンダクタンス、電圧、カルシウム感受性の大きなカリウムチャンネルです。MaxiK チャンネルは、孔形成  $\alpha$  サブユニットと調節  $\beta$  サブユニットの2つのサブユニットから構成されます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MaxiK $\alpha$  サブユニット電流の活性化時間を短縮する補助的な  $\beta$  サブユニットです。選択的スプライシングにより、この遺伝子の複数の転写バリエーションが生成されます。文献では追加のバリエーションが議論されていますが、それらの全長は記載されていません。[RefSeq 提供、2013年7月]、ドメイン：ボールアンドチェーンドメインは KCNMA1 の不活性化を媒介します。これは KCNMA1 チャンネルの伝導経路を閉塞し、孔をブロックするボールドメイン（残基 1-17）と、それを膜貫通セグメントにリンクするチェーンドメイン（残基 20-45）で構成されます。ボールドメインは、整然としたループヘリックスモチーフに固定された柔軟な N 末端で構成されています。チェーンドメインは、C 末端に折り畳まれていないリンカーを持つ4回転ヘリックスで構成されています。機能：カルシウム活性化カリウム KCNMA1 (maxiK) チャンネルの調節サブユニット。KCNMA1 のカルシウム感受性とゲーティング動態を調節することで、KCNMA1 チャンネルの多様性に寄与します。KCNMA1 チャンネル複合体の迅速かつ完全な不活性化をもたらす負の調節因子として機能します。副腎のクロマフィン細胞または海馬 CA1 ニューロンにおける KCNMA1 の不活性化に関与している可能性があります。PTM：N-グリコシル化されています。類似性：KCNMB ファミリーに属します。サブユニット：KCNMA1 テトラマーと相互作用します。KCNMA1 テトラマーあたり、おそらく4分子の KCNMB2 が存在します。組織特異性：腎臓、心臓、脳で発現しています。卵巣で高発現。他の組織では低発現。

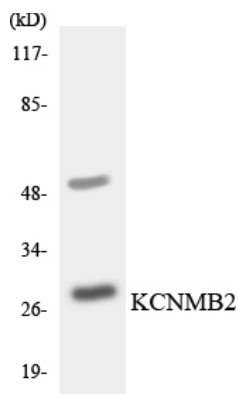
## 研究分野

血管平滑筋の収縮;

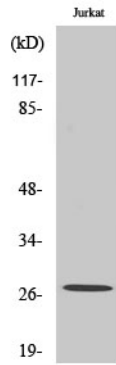
## 画像データ



KCNMB2 抗体を用いた Jurkat 細胞、COLO 細胞、HepG2 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



KCNMB2 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



MaxiK $\beta$ 2 ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。